

# 地域の自然が川で繋がっていることとその影響を交流学習で理解、実感できた

一般社団法人おかやまエコサポーターズ

## 活動の目的

地域の自然を知ることによって課題や魅力に気づき、他地域との交流を通じて持続可能な社会づくりの視点を体験的に学ぶ。

## 活動の内容及び経過

- ①5/30 小串小 5・6年生 12名アマモに関する授業 生態、役割の解説と日生漁協、日生中学の里海再生の関わりを知る。  
講師：NPO 法人里海作り研究会 田中氏
- ②6/5 小串小 3・4年生 8名  
講師：NPO 法人アサザ基金 飯島氏
  - ・生き物と話をする方法を学ぶ（体のつくり、暮らし、住処）、自然はありがとうで繋がっている+学校裏山の自然観察（トンボや植物竹藪の現状を知る）
  - ・5・6年生 前年の干潟授業の振り返り、アマモと私たちのくらしのありがとうのつながりを学ぶ
- ③6/6 中和小 3・4年生 7名  
講師：NPO 法人アサザ基金 飯島氏
  - ・生き物と話をする方法を学ぶ（体のつくり、暮らし、住処）、自然はありがとうで繋がっている+学校傍の田んぼ、川の自然観察
- ④7/9 小串小 3～6年生 20名  
講師：NPO 法人アサザ基金 飯島氏
  - ・校区内相引海岸（地元漁協海苔の養殖域、アマモ場）にて海の生き物の自然観察
- ⑤7/10 中和小 3・4年生 講師：NPO 法人アサザ基金 飯島氏
  - ・校区内 不動滝（旭川の源流域の一つ）の地形、自然観察（雪、川の中の石、砂の役割を観察した植物、水中生物、鳥などから学ぶ）
- ⑥9/30 小串小 3～6年生 20名 講師：岡山県環境学習指導者 古川氏、おかやまエコサポーターズ 小桐
  - ・7/9振り返り授業 干潟、岩場、アマモ場に住む生き物の確認と干潟、アマモ場の役割確認
- ⑦10/9 小串小 5・6年生  
講師：NPO 法人アサザ基金 飯島氏
  - ・海のありがとうのつながりを取り戻すために 海苔の色落ちと田んぼ畑の化学肥料のつながりについて 地元の水路の生き物観察
- ⑧10/10 小串小、中和小 3・4年生 15名交流  
小串小、相引海岸
  - ・中和地域の紹介、名刺交換、相引海岸での海の生き物探しと観察
- ⑨12/16 小串小 3・4年生 講師：岡山県環境学習指導者 古川氏、おかやまエコサポーターズ 小桐
  - ・竹炭づくり ・1月中和小での交流学習に向けての質問づくり
- ⑩1/23 中和小、小串小 3・4年生 14名交流 中和小、不



動滝 講師：NPO 法人アサザ基金 飯島氏

⑪1/24 小串小 5・6年生

講師：NPO 法人アサザ基金 飯島氏、古川氏

- ・学校近隣の冬の自然観察 学校裏山（カマキリ産卵、山繭）、地域の用水路（水生動物）

## 活動の成果・効果

- ・川の上流下流域の交流のために自地域の自然観察を体験することで、自然を見る目が養われた（生物の体のつくり、すみか、暮らしの理解、ありがとうのつながりを探る視点）、交流にむけて、伝えるための学びができた。
- ・旭川の上流下流を相互に訪問することで、川のつながりや地域の環境の違い、を意識することができた。
- ・放置竹林という課題に気づき、有効利用するための炭焼き体験につながり、他校への土産にすることで持続可能な地域づくりにむけた、環境問題解決のための行動が取れた。（小串小）
- ・積雪が殆どない冬を経験することで、雪のもつ意味について考える機会となった
- ・繰り返し、地域の自然を観察することで、地域への理解が深まった。
- ・交流しながら進める総合学習の基本マニュアルが制作できた。

## 今後の課題と問題点

- ・海の学習については、アマモの成長期衰退期が9月～10月のため、観察や交流学習は1学期中に行うことが望ましい。
- ・3月に総合学習の振り返り・まとめを各校で実施予定であったが、新型コロナウイルスの影響で実施できなかった。（小串小）
- ・総合学習の学びの成果を地域の課題として地域住民に発信することができなかった。学校とのすり合わせ・確認不足。

- 代表者：小桐登 ●所在地：玉野市八浜町大崎
- TEL：0863-51-2786 ●E-MAIL：f\_onigiri@mx9.kct.ne.jp
- URL：https://okayama-eco-surppo.amebaownd.com/
- 設立年：2016年 ●メンバー数：8名（個人7、企業1）